

時間割コード	Q4402900	開講年度	2026				
授業題目	教育方法特論【第4欄】					担当教員	小山 茂喜
英文授業名	Methodology of Education						
単位数	1	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	火曜・4時限	対象学生	L
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	教育実践の達人と呼ばれる先生方の教育実践記録の分析を通して方法的な経験法則を学び、そこで得られたノウハウを教材開発の演習に活用することを通して、授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。						
(5)授業のキーワード	学習理論 学力観 教育実践力						
(6)授業計画	第1回：教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)。 第2回：伝統的な学習理論について学ぶ。 第3回：我が国における学習理論の展開について学ぶ。 第4回：教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ。 第5回：子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ。 第6回：授業参観と授業分析の基本を学ぶ。 第7回：教材開発の手法について、具体手的な作業を通して学ぶ。(ICT活用を含む) 第8回：各自の専攻科目に対応した学習計画を作成し、発表する。(グループ学習)授業アンケート。						
(7)成績評価の方法	各回に課すレポート(50%)と、学習指導案の作成(教材作成を含む)(50%)を総合的に判断して評価する。						
(8)成績評価の基準	規準...概ね目標が達成されているレベル ...さまざまな教育理論の特徴を理解している。 ...ICTを活用した教材開発や授業設計ができる。 基準 『かなり上にある』...場面や内容に応じて様々な学習理論を活用した授業設計を行うことができる。学習活動や内容に応じて、デジタル教材を自ら作成したり、ICT機器を活用して授業を設計することができる。 『やや上にある』...深い学びの展開に向けて、さまざまな教育理論を活用した授業設計ができる。						
(9)事前事後学習の内容	さまざまな学習理論に基づいた教育実践記録を見て、教育内容や方法の有効な点と課題について考察し、レポートにまとめる。 ICTを活用して、教材を作成する。 この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	公開授業等随時連絡をするので、講義の他に実際の授業実践を参観することが望ましい。 資料をeAIPSにアップするので、必ず確認して学ぶこと。						
(11)質問、相談への対応	オフィス・アワー：講義後等随時対応します。 メールも可。 shigeki@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	すべての回に出席することが前提です。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	eAipsに掲載した資料を基に自学自習し、レポートを提出。						
【教科書】	適宜、プリントや資料を配付します。						
【参考書】	田中耕治編,「時代を拓いた教師たち」, ISBN4-8208-0256-9, 日本標準, 2005年, 1800円 田中耕治編,「時代を拓いた教師たち」, ISBN4-8208-0422-2, 日本標準, 2009年, 2000円 中央教育研究所編,「本当の学力が育つ達人の授業」, ISBN4-487-80026-9, 東京書籍, 1500円 吉崎静夫,「デザイナーとしての教師 アクターとしての教師」ISBN978-4760892396 , 金子書房, 1997年, 1600円 グラント ウィギンズ「理解をもたらしカリキュラム設計―「逆向き設計」の理論と方法」, ISBN978-4820805571, 日本標準, 2008年, 6480円						